

伊勢市長賞

「認知症のおばちゃんとお出かけ」



有緝小学校 三年 奥野 心海

おくの こころみ

94才親せきのおばちゃんと、かき氷を食べに行ってきました。おばちゃんは認知症です。週2・3回デイサービスに行って一日楽しんでるそうです。それ以外は家で一人で過ごしています。たまに娘さんと買い物に行くぐらいです。暑くなってきたので、

「かき氷が食べたい。赤福の氷が食べに行きたい」「もう来年は行けないかもしれないから」と言ったそうです。でも歩くのもフラフラ。トイレも何度も行くので、行くのはやめようかと思ったみたいですが、94才最後になるかもしれないので、みんなで

行く事にしました。おばちゃんは、いつも同じ話を何回もしたり、立ったり、座ったりとフラフラしています。何度も転んでいくそうです。今はあまり外には出ていないけれど、少し前は、一人で、出て帰ってこない事があり、けいさつよりれんらくがあつたり、誰かに助けられたりされて、いました。娘さんは怒っていたそうです。くつやカバンに名前を書いたり、玄関にセンサー、それでも出ていくので、鍵をいくつかつけてみたそうですが、それでも出ていくので

「なんで出ていくのだろう」と考えたら、その方向におはかがある事に気づいたそうです。それから、はか参りを週一回、行くようにしました。娘さんが、かき氷を食べている時に、

「出ていかないようにしていたのは、間違っ

ていた」と話していました。認知症の方の事はまだ分からないけれど、

「一緒に」と娘さんが言っていたのが大切に思いました。またおばちゃんや娘さんと一緒に、お出かけしたいと思います。

伊勢市議会議長賞



「もっと伊勢をやさしい町にしたい」

なかむら

ひなこ

豊浜東小学校 六年 中村 日向子

「少子高齢化社会」という言葉をテレビのニュースでよく耳にします。調べてみると私が住んでいる町のことだと思いました。私の町では、歩いていると道ですれ違う高齢者の方がたくさんいます。生き生きと活動されている方もいますが、足が不自由でゆっくり歩いている方、目が不自由な方、腰が曲がって歩きづらそうにしている方、耳が聞こえにくくて補聴器をつけている方、認知症の方などさまざまな方がいます。みんな自分の体のことで精一杯のはずなのに、私たちのことを見ると「あんた大きくなつたなあ」

「気をつけて学校行きないな」「中村さん
とこの日向子ちゃんやなあ」など、温か
く声をかけてくれます。私のことをいつ
もやさしく見守ってくれていることが伝
わつて、とてもうれしく思っています。さ
らに、声をかけてもらうことで、やさしい
気持ちになります。

私は1歳の時にこの町へ引っ越して来ま
した。町の人たちが家族みたいによく声
をかけてくれて、私はこの町のこと、そし
て、町の人たちのことが大好きです。この
十年の間で私の体は大きくなったし、で
きることもたくさん増えました。年を重
ねることは、自分が成長できるので嬉し
いです。

私のおばあちゃんは「日向子が成長す
るのはうれしいけど、自分は歳をとりた
くないなあ」とよく言います。小さい時

は、おばあちゃんがどうしてもそんなことを言うのかよくわかりませんでした。しかし、今はその意味がわかると思います。少し前まで元気に歩いていた人が歩けなくなったり、声をかけてくれた人が認知症になり今までのように話ができなくなったり、介護が必要になり介護施設に入ることになったりする人がいます。私にとっては成長の十年でしたが、高齢者の方には、だんだんと体が老いていく十年だと感じました。

以前、高齢者体験をしました。高齢者の体の様子を体験するために、重りを手足に付けたり、曇っているゴーグルを目に付けたり、耳栓をしたりしました。体の自由がきかなくて、少しの時間の体験だったのにとっても疲れました。

高齢者の方が私たちを見守ってサポー

トしてくれたお返しに、私にできることは何か考えました。高齢者の方たちの役に立てるようなお手伝いをしたいと思いました。子どもだからできないということはないと思います。私は、子どもと高齢者が共に支え合う町がすてきだと思います。みんなのやさしさの輪が広がって、高齢者の方も伊勢に住んでいて幸せだと感じる事ができたり、笑顔になれたりする町を目指したいです。自分からできることを考えて取り組んでいきたいと思います。高齢者の方が住みやすい町はきつと私たちにとっても住みやすい町です。伊勢市がもつともつとやさしい町になりますように。

伊勢市教育長賞

「認知症のじいちゃんのこと」



小俣小学校 三年

たにおか
谷岡

そういちろう
蒼一郎

今年の春に、ぼくのじいちゃんは、七十
七才のおいおいをした後認知症で死んで
しまいました。

元気な時のじいちゃんは、ぼくのおも
ちやをよく買ってくれました。車でたこや
きやさんにつれて行ってもらったこともあ
ります。認知症になってからは、車が運で
んできなくなつて、しゃべることもできな
くなつて、ついにトイレもできなくなりお
むつをはくようになった、さい後には歩け
なくなつてしまいました。どんどこかわつ
ていつてしまうじいちゃんを見て、もうじ
いちゃんといっしょにお出かけしたり遊ん

だりすることができなくなると思つて、すごくさみしかったです。

認知症になつてもぼくはじいちゃんが大好きだから、じいちゃんがしゃべれなくても、ぼくはたくさん話しかけました。するとじいちゃんは、おーと言つてわらつてくれました。

ごえんせいはいえんで入いんした時、もうすぐじいちゃんは死んでしまふんだと思ひました。おそう式でじいちゃんのひつぎに花を入れる時、ぼくはかなしくてなきました。じいちゃんともつとやりたかつたことがいっぱいあつたからです。

この作文を書いている時、さみしくてなみだが出てきたから書きたくなくなりました。けれど、この作文をじいちゃんの仏だんにあげたかつたから、がんばつて書ききりました。じいちゃんの時は、ぼくは小

さくてできなかつたけど、今のぼくは、じ
いちゃんのおかげで認知症のことを知って
いるから、認知症の人がいたら歩くのを
手つだつてあげたり、やさしく話しかけた
りしてあげようと思っています。

伊勢地区医師会長賞

「知らないおばあちゃん」



修道小学校

一年

いわき
岩城

みおん
美音

4がつ、知らないしろいかみのけのおばあちゃんがわたしのいえのふとんでねていました。そのおばあちゃんは「このいえはわたしのいえだ」といつていました。とてもこわくて、ままとぎゅつとてをつないでいました。

でもげんかんのくつをきれいにそろえてくれました。わらいかけてくれました。それでもわたしはとてもこわかったです。そのあと、きんじよのおばあちゃんだとわかりました。

ママからとしをとるといえがわからなくなる、いえをまちがえるなどのことがある

とおしえてもらいました。また、にんちし
ようとゆうことばをはじめてしりました。

わたしはにんちしとうことどもサイトでに
んちしとうについてしらべました。にんちし
ようはのうのびようきで、知らないおばあ
ちゃんも「まっていたかもしれないとおも
いました。

これからは「こはわたしのいえだよ」と
やさしく「えをかけたいです。おとなのひ
とにしらせることとでみんながえがおであん
しんしてくらせるようになるとしらべたサ
イトにのっていました。おもいやりをもて
るひとになりたいとおもいました。

伊勢志摩区域連携型

認知症疾患医療センター長賞

「ぼくは認知症キッズサポーター」



しまおか りんたろう

御園小学校 六年 島岡 凜太郎

ぼくは、夏休みに「認知症キッズサポーター養成講座」という講座を申しこんで受けてみました。

「認知症サポーター」とは、認知症の人の応援者です。特別なことをするのではなく、認知症の人を温かい目で見守る人のことをいいます。

その日は、医師会の先生がお話をしてくださいました。お話の中には自分が知っていることもあったけど知らない話もたくさんありました。例えば、だれでもとしをとればとるほど認知症になる可能性が高

くなるけど若いうちに認知症になってしまいう人もいるということにおどろきました。ほかにも、腸内細菌と認知症が関係があるということを教えてもらってびっくりしました。腸内環境を整えたり、便秘にならないようにしたり、朝は起きたらすぐ歯みがきをすることが大事だと知りました。

医師会の先生に教えてもらって一番心に残っていることは、認知症の方との接し方です。ぼくの知り合いには認知症の人がいないので接し方を気にしたことがなかったけど、今後自分の周りの人が認知症になってしまったときは大きな声でゆっくり話してあげたり、共感性をもつてあげることが大切なんだとわかりました。おばあちゃんは七十六さいだけど認知症になっっていないからこれから認知症になら

ないでいてほしいです。

認知症になつてしまつたら覚えられない、忘れてしまう、時間や月日、場所、人が分からなくなる、道に迷つて帰れなくなるなどの症状が現れると聞いて家族の名前も忘れてしまうのはこわいなと思いました。

「認知症キッズサポーター養成講座」に参加してみても改めて認知症になりたくないし家族や知り合いにも認知症になつてほしくないなと思いました。もしも知り合いが認知症になつてしまつたら温かい目で見守り、生活の手助けをできる限り手伝つてあげたらいいなと思っています。

医師会の先生の話はおもしろかつたし、わかりやすく丁寧にお話をしてくださつたのでまた「認知症キッズサポーター養成講座」にもう一回参加してみたいと思います。

ました。また友達にもそういうのがある
ということを見せてあげたいなと思いまし
た。

伊勢市立伊勢図書館長賞

「しせつのおおばあちゃん」



進修小学校 四年 田口 弓翔

たぐち ゆみと

ぼくのおおばあちゃんは老人しせつに
居ます。

ぼくが三才のころ、家でこけてこっせつし
てしまい家ですごく事が出来なくなつた
のでしせつに行くことになりました。

二ヶ月か三ヶ月に一度しかなかか会
えないけど、おおばあちゃんに会いに行く
のがぼくは、楽しみです。おおばあちゃん
は、ぼくの顔を見ると、いつもゆみとくん
元気しとるか、おおきくなつたなあ。と
言つてくれます。

今回は、おおばあちゃんのしせつでのす
ごし方や、しせつではたらいっている人の様

子が気になったので聞きに行くことにしました。

おおばあちゃんは朝起きてから、他のしせつですごしているみなさんがいる大きな部屋へ行つて朝ごはんを食べてテレビを見たり、話をしたりして午前中はすごすと言っていました。お昼ごはんを食べたあと、お風呂に入ったり、おおばあちゃんは洗たく物をたたむ手伝いをするみたいです。夜ごはんも毎日おいしいと言っていました。

ぼくは、家族とはなれてすごすおおばあちゃんがさみしくないのか心配になったので、しせつですごすのは楽しいと聞いてみました。

おおばあちゃんは、みんなと会話したり何かを作ったりしてるから毎日楽しいよ。と教えてくれてぼくは安心しました。

しせつではたらいっているしよく員さんにも大変なことや、この仕事を選んだ理由を聞きました。

この仕事で大変な事は人とのコミュニケーションをとる事だと教えてくれました。この仕事を選んだ理由は、おじいちゃんおばあちゃんが好きでお手伝いをしてあげたいからだよと教えてくれました。

おおばあちゃんが、しせつで楽しく元気にすごせているのはしよく員さんのおかげでもあるんだなと思いました。

これからぼくもできるかぎりおおばあちゃんに会いに行っているんな話をしたいです。

伊勢市立小俣図書館長賞



「わたしの大好きなひいおばあちゃん」

有緝小学校

三年

森 もり

優華 ゆうか

わたしのひいおばあちゃんは、わすれん
ぼうで、ちよつとおこりっぱいかわいいおば
あちゃんです。わたしがふ安なときは、

「だいじょうぶだよ。」

と言ってくれるから、とても安心するんで
す。

わたしの小さいころから好きな本で「だ
いじょうぶだいじょうぶ」という本があり
ます。「まったことや」わい「ことがあると、
だいじょうぶと手をにぎって、安心させて
くれるやさしいおじいちゃんのお話です。
いつしかおじいちゃんもとしをとり、入い
んしてしまいます。はじめてこの本を読ん

でもらったのは、わたしが三さいのころだ
そうです。その時のわたしは、人はだれも
が年をとるということを、分かっていませ
んでした。わたしは九さいになり、今なら
分かります。そして、わたしのひいおばあ
ちゃんも年をとったんです。さいきん、と
く意なりよう理が出来なくなりました。
どんどん出来たことが出来なくなつて、お
ばあちゃんはふ安そうです。わすれっぽく
なつて、カレンダーにやくそくしたことな
どを書いています。書きわすれていること
は、聞いていないとおこります。今ではち
よつと、大きくなつたわたしが言います。

「だいじょうぶだよ、おばあちゃん。」

夏休みにひいおばあちゃんとほおずきで
遊びました。ふくろをやぶつて、みをやさ
しくもんでいきます。中みを取り出すの
に、わたしは上手くできませんでした。ひ

いおばあちゃんは、上手にとれてふくらませて遊びました。ひいおばあちゃんは、色んなことを知っています。まだまだ教えてもらうことがいっぱいあります。

わすれっぽくなつたひいおばあちゃんは、たまにおこられています。わたしは、色々なことを教えてくれる、ひいおばあちゃんをそんけいする気もちをわすれずにいたいと思います。おばあちゃんが大好きです。